

真宗生活入門講座Ⅰ

自己と社会

— 仏教の問題点 —

目次

はじめに	1
一、自己について	12
1、自覚	12
2、自己	20
3、求道	25
4、自我	29
5、自愛	33
二、社会について	41
1、主体と環境	41
2、穢土	47
3、浄土	53
4、本願	60
むすび	65

宗教の誤解

はじめに

一概に宗教というけれども、この宗教ということがなかなかわからぬ問題である。今日、宗教を否定する人が多くなったといわれ、また、中には宗教を肯定する人もあるが、困ったことには否定する人も肯定する人も、共に宗教ということがわかっていないようである。

わかっていないのにどうして宗教が否定できたり、肯定できたりするかというと、これはつまり、文化的な考え、ひらたく言えば人間の考え、そういうもので解釈した宗教の概念、そんなところで宗教

をつかまえるからである。

しかし、文化的にとらえられた宗教というもののほどまちがったものは世の中にはないのであるが、それがまちがったものだとわかることは、宗教的世界からの見通しによるほかはない。これは宗教の悲劇ともいべき一つの大きな矛盾である。

さまざまの宗教が市井に氾濫している。そして人はそれを宗教と呼び、またそう思い、時にはそれに動かされる。迷信という事態の起こるのもすべてこの宗教に対する誤解から生じているようである。

宗教と欲望 の満足

人は宗教問題というと、えてして感謝とか、拝むとか、心を清らかに持つとか、救いとか、さまざまな宗教的概念を並べ立てて想像

するけれども、そういうことの出てくる根源が何であるかを明らかにしなければ、感謝も礼拝も無理にそうしているというだけに過ぎなくなる。あるいは何か別のことを期待してなされる手段に用いられることになる。もしそうなってしまうえば、宗教という名のもとに、人間の功利性を満足させることであって、それは宗教と呼ぶにはほど遠いものとなる。

今、各処に、盛んに伝播しているある種の宗教にはこうしたものが多い。さまざまなのが説かれ、いろいろのことが教えられているけれども、押しつけて見ると人間の欲望の満足であり、功利心の延長である。自我を滅却するとか自己を捨てるとかいうことが、まことしやかに説かれるけれども、そうすることによって自分自身

が楽になったり、好都合になったりすることが最終の目的のようである。滅却とか、捨てることを手段にして、捨うことや与えられることを目的とするような、込み入ったずるさからは一歩も出ていないようである。

こういうところに宗教が、人間にとってこれほど大切なものはないにもかかわらず、反面またとらえ難いというものを含んでいるのである。人生には別にこれが宗教問題だと、取り立てて言うべき問題はない。あるのは人生におけるさまざまな問題であろう。恋愛、貧困、病氣、その他、われわれは人生において種々の問題に出あう。否、むしろ生きていくということは、問題があるということと同義語だと言ってもいいほどである。そういう問題、それを離れて宗教

の問題はない。いわば宗教問題が具体的にはそういう種々の問題のかたちをとって現れているのである。

われわれは貧困に悩むと言い、病気に悩む、恋愛問題に苦しむと言うが、実はそういうかたちで自己自身を悩んでいるのである。つまり、自分の解決がつかないのであって、貧困や病氣を通して、人間は人間自身を悩んでいるのである。

自分に起こっている何かについて悩んでいることと、何かについて悩んでいる自己そのものを悩んでいるのとは次元が違う。貧困や失恋で悩む底には、貧困や失恋に耐えられない自己というものに対する悩みがある。失ったということに対する悩みは、最後には思い切れないという自己をもてあます悩みに行きつく。いわば自分の始

末がつかないということである。あらゆる問題は人生において起こる問題である。しかしその問題の底には、自分が自分をどうにもできないという自己自身の問題、生きているそのことの問題が横たわっている。宗教問題というのは、この生きているそのことの問題であって、生きている上に起こる問題は、生きているそのことの問題なのである。

だから、宗教問題は探してみるとないようであるが、どこにでもあるものである。一切が宗教問題である。具体的には経済問題、社会問題、家庭問題などのさまざまなかたちをとるが、その根になるものが、宗教で取り上げる問題である。特殊なかたちをとって、人間とは何かという原理的な問題が起こっている。したがって、真の

解決は人間そのものの解決以外にはない。経済の問題は単なる経済問題ではない。経済の問題を経済的に解決し、家庭の問題を家庭的に解決しただけでは、それも大切であるが、本当の解決にならぬ。病気を医学的に解決しても、また罹かかれば困るということはなくならぬ。健康な人間でも病気をすれば困るという可能性だけは持っている。

問題の解決

人はこうした特殊な問題を、特殊なかたちだけでこたえようとす
るが、それは真の解決にはならぬ。一時しのぎというものである。宗教は特殊な問題を原理的にこたえるのである。深く人間というものを根底から明らかにすることによって、人間の問題にこたえようとするのである。